

## 2-2 便利なインターネットもこんなにこわい

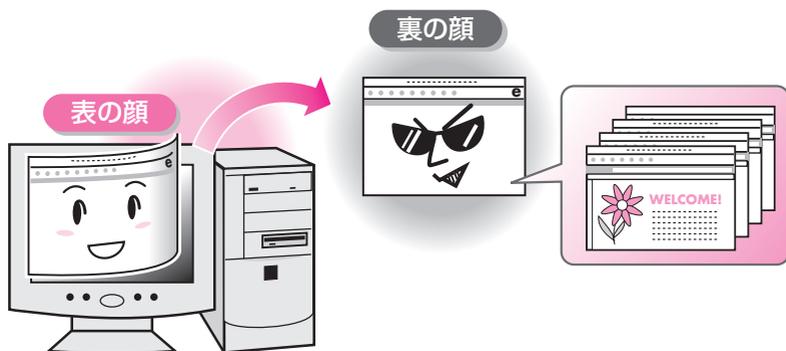
### 事例4 不審なWebページへのアクセスによる被害

総合商社X社の営業部に勤務するAさんは、新しく取扱う商品を検索するために、Webページを閲覧していました。リンクをたどっていると、商品情報とは無関係の不審なWebページに接続してしまいました。面白半分に、Webページ内の“アンケートに答えて海外旅行をゲット”というリンクをクリックしました。すると、「会員登録ありがとうございました!」というメッセージとともに、入会金50,000円の振り込み先が表示されました。

コンピュータを再起動したところ、正常に起動し、特に異常はありませんでした。しかし、しばらくすると入会金の支払いをうながすメッセージが表示されてしまいます。

Aさんはパソコンを復旧する作業に3日間費やしてしまい、ほかの営業部員にも多大な迷惑をかけてしまいました。

この事例の要因として、業務に関係ない不審なWebページに接続したこと、ユーザーの危機意識が低かったことがあげられます。



## 組織におけるインターネット利用上の注意

最近では、多くの組織でLANを構築しインターネットに接続できる環境を設けています。本来、組織におけるインターネットの接続は、あくまでも業務に関連したものを検索したり調べたりすることなどを目的としています。しかし、自由に接続できる環境を利用して、業務と無関係なサイトを見ている人たちもいるようです。これは、会社の資産を業務外の目的で利用しているだけでなく、ネットワークに負荷がかかるので、処理速度の低下につながり、業務でネットワークを利用している人の作業効率を低下させ迷惑をかけてしまいます。

さらに、Webページの中には接続するだけでパソコンを動かなくさせたり、ウイルスに感染させたりするような悪質なものが存在します。本人に悪意がなくても、このようなWebページに接続することで、組織全体に迷惑をかけることになりかねません。したがって、組織内においては、インターネットを私的に利用するのをやめ、本来の目的に適した運用を心掛けましょう。

## 被害者なのに加害者？

悪意のあるWebページの手口にはさまざまなものがあります。

例えば、URLのリンクをクリックするとウイルスが仕込まれるようなサイトや、Webページに配置されているボタンをクリックするとそのページとはまったく関係のない掲示板に書き込みをしてしまうものなどがあります。

やっかいなのは、仕込まれたウイルスによりほかのユーザーを攻撃したり、掲示板に公序良俗に反するような書き込みをしたりして、本来被害者であるはずなのに加害者とみなされてしまうようなことがあることです。

このような悪意のあるWebページがあることを認識しつつ、インターネットを利用するとよいでしょう。

## チェック

- 業務に必要なWebページ、不審なWebページにはアクセスしないようにしましょう。
- ネットワークの私的利用はやめましょう。